蛍舞ふ熊川宿に灯が点る（熊川宿重伝建選定20周年記念 俳句・川柳コンテスト 入選作品）
町並み通信・第37号

鯖街道 熊川宿

平成30年8月1日発行

若狭熊川宿まちづくり特別委員会
福井県三方上中郡若狭町熊川
TEL／FAX（0770）62-0330
熊川宿ホームページ http://kumagawa-juku.com

街道シェアオフィス&スペース菱屋 熊川宿若狭美術館 オープン

古民家をリノベーション

～ 仕事と雇用・若者との交流・賑わい創出に期待 ～

菱屋は熊川宿の中心部にあり、広い間口や重厚な佇まいが熊川を代表する町家の象徴となっています。江戸時代中期に炭問屋として財をなした大店（おおだな）ですが、近年は空き家になっていました。

おおい町出身で建設開発会社㈱デキタの社長時岡壮太さんが、地元でまちづくりに関わる事業をしたいとの思いから古民家を改修したシェアオフィスを計画。若狭町の支援や熊川宿まちづくり委員会の協力で実現しました。

4月7日、オープニングセレモニーが行われ、森下町長や所有者の勢馬さん姉妹、入居予定者、熊川区民らが出席してオープンを祝いました。

また5月2日には、逸見酒店の倉庫として使われていた建物を改修し、NPO法人 若狭美&Bネットが運営する熊川宿若狭美術館がオープンしました。（3・4ページに関連記事）

このように民間活力による有効活用が進められたことは、社会的にも大きな反響があり、今後の熊川宿の空き家活用の牽引役を果たすものと考えています。みんなでこの取組みが成功するように協力し、所有者をはじめ区民の皆さんの意識高揚を図るとともに、新たな雇用が生まれるよう取組んで行きたいと思います。

目次

菱屋・美術館 オープン……1
寄稿文・事業報告……2
寄稿文・NEWS……3
寄稿文・NEWS……4
研修報告・事業計画……5
活動報告・研修報告……6

安心安全で活気あるまちづくり

平成30年度 熊川区長　小林庄一

「熊川区民が安心安全で暮らせますように」これは今年のまちづくり七夕飾りの短冊に込めた私の願いです。

昨年12月、私たち熊川区民が待ちにまった悲願の河内川ダムの本体コンクリートの打設を完了して頂き、高さ77.5メートル、長さ202.3メートルの壮大な姿を見せてくれました。今後、試験湛水を経ていよいよ来年5月の完成と同時に、過去、幾度となく繰り返された洪水と冠水の被害に終止符が打たれようとしています。そのことに私たち熊川住民は大きな期待と喜びを感じています。

しかし、近年、全国各地で頻発している地震やゲリラ豪雨と言われる局地的な集中豪雨といった自然災害のニュースを見たり聞いたりするたび、熊川にとっても他人事、他所での出来事ではないと感じているのは私だけではないと思います。

七夕飾り

事実、昨年の台風21号では熊川区内においても大きな災害に襲われ、自然災害の恐ろしさをまざまざと見せつけられたことは記憶に新しい出来事であり、特に下ノ町山側急斜面は大雨、台風、大雪そして地震などによる土砂崩れや落石で生命や財産に危険が及ぶ可能性が大きいため、早急な安全対策を積極的に求めて行きたいと考えています。

皆が願う安心安全な熊川宿を未来へ繋げる基本は住民の生活であり、区民みんなが常日頃から防災意識を持つことは何よりも大切なことです。万が一災害が発生した時、最も大切となるのは住民のつながり、強い絆であると思います。

以前、住民のつながりは地域で取り組む様々なイベントや伝統芸能活動から生まれるということを聞いたことがあります。

そのためにも、地域の様々な行事や取り組みを通してコミュニケーションを活発にし、災害に強い組織づくりに繋げると共に熊川で生まれ育った子供たちがふるさとを思い、住みたいと思い続けることができる魅力あるまちづくり、更には若者が生きがいや働きがいを見つけられる活気ある熊川になるよう関わりをもって行きたいと思います。

河内川ダム本体コンクリート打設完了祝い

熊川宿まちづくり総集会

とき：平成30年2月18日(日)　ところ：熊川児童館
主催：熊川区・熊川区ダム対策特別委員会・まちづくり委員会

河内川ダム本体コンクリート打設完了をお祝いして開催。

第1部で、河内川ダム建設事務所の高野所長から、降雨災害の傾向や水資源の循環に加えて、ダム建設の歴史などをお話いただきました。

河内川ダム建設工事共同企業体の奥田所長には、日頃から熊川地区の諸活動に大変なご支援をいただいており、この機会に改めてダム建設工事の節目や地域共生についてお話しいただきました。また森下若狭町長から感謝状の贈呈が行われました。

熊川区ダム対策特別委員会の檜鼻委員長からは、ダム建設に対する取組みを振り返り、この40年、行政と多くの諸先輩方がダム建設と町並み保存の両輪で歩んで来たことを報告されました。またまちづくり委員会と合同で行って来たダムと町並み研修に理解を深めてきたことも懐かしい写真とともに報告されました。

第2部は、自然環境や空き家を活かした新たな事業の展開について報告がありました。

熊川宿内では逸見酒店倉庫を美術館にする構想や、菱屋をシェアオフィスにする改修が進められています。

今回は、第三次熊川まちづくりマスタープラン策定委員会の中間報告、農泊による地域活性化モデル事業の紹介、街道シェアオフィス&スペース菱屋の取組みの説明がありました。

最後に宮本会長からお礼と空き家を始めとするまちづくり全般についてお願い事項が話されました。

続いて、お礼と歓迎の気持ちを込めて、熊川区内の青年や子供たちによる祭り囃子6曲が披露されました。

総集会の後は懇親会が開かれました。地元商店によるオードブル、鯖寿司、コンニャクの田楽、原木しいたけ焼きや巻き寿司を用意していただき、大いに盛り上がりました。

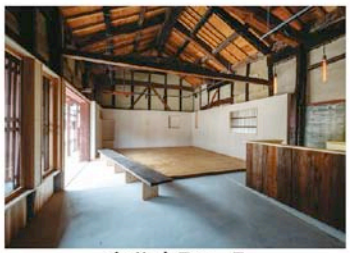
菱屋の改修と今後について

㈱DEKITA 代表取締役 時岡壮太

先日4月7日にシェアオフィス&スペース菱屋をオープンさせることができました。準備期間中より、熊川宿まちづくり総集会や区役員会等にお呼びいただくなど、お心遣いをいただき大変ありがとうございました。

シェアオフィス&スペース菱屋は、弊社の他、4つの企業、団体が入居するシェアオフィスであるとともに、古民家でイベントをしたい方に使ってもらえるレンタルスペースでもあります。若狭町外の方、熊川宿の関係者以外の方に熊川宿を利用してもらうことで、少しでも多くの方に熊川宿の魅力が伝わればいいなという思いで菱屋を改修しました。

私もおおい町出身で、若狭町外の者です。高校卒業後に地元を離れてから、すでに20年近くが経過しています。大学で都市計画を勉強している時から少しずつ地元福井のまちづくりに関わりたいとの気持ちがつもり、福井県人会、東京若狭会などに出席させてもらうなど、福井のまちづくりに関われる機会を模索していました。2年ほど前、知人に紹介してもらい、兵庫県篠山市で古民家利活用事業に取り組む株式会社NOTE(ノオト)の皆さんにお会いしたことが転機となりました。


イベントスペース

ミーティングルーム

NOTEは、篠山城下町内にある空き家を自分たちで改修し、飲食店や宿泊事業者、物販店などを誘致する古民家利活用事業を展開している団体(企業)です。行政の補助金に頼ることなく、地域の価値を高めようという意志をもって、自分たちで事業を仕掛けていくNOTEの姿勢に、そのとき大変な刺激を受けました。そしてこのような事業を地元若狭地方で展開したいと思い立ち、東京若狭会で親交があった若狭町役場の方に相談させてもらったことが、今の菱屋の改修につながっています。

8月には弊社の本籍地を菱屋に移す予定です。また菱屋を拠点に、熊川宿内で宿泊事業をはじめられるよう準備をしています。若狭の玄関口であった熊川宿のアイデンティティを活かせるよう、若狭を訪れる方の入り口になるような宿泊施設をつくりたい!と考えています。

街道シェアオフィス&スペース菱屋 オープン

平成30年4月7日(土)

菱屋は、古民家の佇まいをそのままにリノベーションされ、複数の事業者などが共同で間借りするシェアオフィスとして生まれ変わりました。

オープニングセレモニーでは、森下若狭町長と熊川宿まちづくり委員会宮本会長の挨拶に続き、㈱DEKITAの時岡代表から自己紹介を兼ねて経緯や改修の特徴などが説明されました。

続いて、見学会と並行し、関係者全員が集まってマスコミ各社からの取材を受けていました。建物の部材や構造、施工方法、入居予定者、所有者の勢馬さんの在宅スペースを確保した点など多岐にわたり質疑応答されていました。

また当日は、梅の木で色鉛筆を作るワークショップが開かれ、観光客も興味津々でした。フリーランチでは、熊川バルでお馴染みの藤本シェフが娘さんも動員して、美味しいランチやスイーツが提供されました。

イベントスペースでは、反田氏によるドリンクバーや、佐々木誌菜さん、オトザイサトコさん、サクラフィルムさんによるミニライブが開かれ、古民家ステージで爽やかな歌声が響いていました。

また、ルーシーダットンというタイ式ヨガも開かれました。独自の呼吸法で体調を整えたり体の歪みを直す効果があるそうです。

この菱屋は、熊川宿の空き家の多目的活用のスタートです。他の空き家活用のお手本となるようシェアオフィスを皆で盛り立てていきたいと思います。様々な仕事をする団体や個人が熊川宿の空き家を活用して仕事をする新しい時代の始まりです。

《インフォメーション》
街道シェアオフィス&スペース菱屋
営業時間：9:00～17:00
TEL：0770-62-1777
住所：福井県三方上中郡若狭町熊川30-6-1
URL：https://hishiya-wakasa.com

《入居オフィスの紹介》(平成30年7月現在)
詳しくは各ホームページ等をご覧ください。
■PLUS WILD (101号室)
https://pluswild.com
■逸見家着物ミュージアム
produced by 井上呉服店(102号室)
http://www.inouegofuku.com
■株式会社 DEKITA(202号室)
https://dekita-tokyo.com
■熊川まちづくり推進協議会(202号室)

「熊川宿若狭美術館」の開館に寄せて

NPO法人若狭美&Bネット理事長
熊川宿若狭美術館 館長
長谷光城

「若狭ものづくり美学舎」開校

私は長い教員生活を送る中で、学校以外に学校教育を補完する場、地域の教育力を高める場が必要だと常々感じていました。平成16年春に退職した私は、退職教職員等50名余りの方々の協力を得て、平成18年5月にJR大鳥羽駅舎に多機能複合教育施設「若狭ものづくり美学舎」を開校し、運営主体としてNPO法人若狭美&Bネットを設立いたしました。そして、幼児から高齢者までのすべての世代の生涯学習の場を提供すると共に、幼児から障がい者までの美術制作活動の支援、不登校生や学校中退者の支援、若者自立就労支援などに取り組んできました。

「光水画廊」の開設

平成25年に第2回FBCかがやき基金「大賞」を受賞し、その賞金をもとに、JA鳥羽支所倉庫に「陶芸工房」、旧大鳥羽駐在所に「交流アートスペース」、旧熊川駐在所に「光水画廊」などの施設を拡充しました。その一方、平成18年から28年までの10年間、若狭町文化政策アドバイザーとして、若狭町伝統的建造物群保存審議会の委員として全国の町並みを歩き、熊川宿の修景保存、活性化の取り組みに深い関心を寄せてきました。

「若狭ものづくり美学舎」での制作作品の発表の場、美術鑑賞の場として、また、熊川宿に小さな付加価値を付けたいとの想いから、文化施設「光水画廊」を開設させていただいたのです。

「熊川宿若狭美術館」の開館

「若狭ものづくり美学舎」のきりアート(障がい者アート)制作活動や3年間に及ぶ「光水画廊」での展示活動等を高く評価いただいた日本財団から、障がい者の文化活動や就労支援の場として、展示と憩いのスペースを持つ「熊川宿若狭美術館」開設の提案をいただきました。建物・土地所有者の逸見寿一氏、逸見武則氏の温かいご理解のもと、日本財団からの助成、福井県、若狭町からの支援のもと一期の改修工事を進め、5月2日に開館いたしました。

運営に当りましては、障がい者アート、子ども美術、現代美術等の作品を同列に扱い、美術の原点から個のリアリティの独自性を高く評価し合う、新しい共生社会構築を目指す美術館としての活動を展開してまいります。続いて、障がい者が働き、地域の人々が憩い、賑わいを創出する場をつくり、皆さま方に愛される美術館を目指し、交流人口は云うに及ばず、美術文化活動から関係人口を増やし、熊川宿活性化に少しでも貢献できればと願っています。

熊川宿若狭美術館 外観

熊川宿若狭美術館 オープン

平成30年5月2日(水)

テープカット

紅白餅まき

かつて銀行や酒蔵として利用されていた古民家を、特定非営利活動法人若狭美&Bネットが借り受け、日本財団を主として、福井県、若狭町の助成を受け、美術館に改修、開館しました。

館内には、障がい者アート、子ども美術、現代美術の作品を展示し、美術の視点から熊川宿との共生が図られています。

記念式典では、西川福井県知事を始め、日本財団の吉倉常務理事、森下若狭町長、小堀県議会議員、原田町議会議長をお迎えし、長谷光城館長が開館の挨拶を行い、餅まき、テープカット、内覧会が行われ、熊川宿おもてなしの会による郷土料理のおもてなしパーティーで開館をお祝いしました。

最後に小林区長の歓迎の挨拶、まちづくり委員会 宮本会長の万歳三唱でお開きとなりました。

今後、障がい者の就労の場「カフェ」も計画されているそうで、地域の人々が憩い、賑わいを創出するとともに、美術館を目的に来られた方が町並みを巡り楽しんで、また観光で熊川宿へお見えになった方が美術館の作品に触れてより満足していただく好循環が期待できます。

《インフォメーション》
開 館 日：金・土・日・月曜日と祝祭日
開館時間：10:00～16:30
入 場 料：無料
お問合せ：若狭ものづくり美学舎 TEL 0770-64-1788

全国伝建協議会 日田市大会

と　き：平成30年5月30日(水)～31日(木)
ところ：大分県日田市豆田町伝建地区
参加者：4名　　報告：宮本哲男

全国から約300人が集いました。

開会式に続き、行政関係者は総会に、住民参加者は事例発表があり、次回開催地の秋田県横手市増田伝建地区から紹介とまちづくり活動の報告、今回開催地の大分県日田市豆田から熊本地震の被害状況と復旧の報告がありました。

記念講演では、熊本大学伊藤教授から豆田のまちづくりの歩みと、熊本地震などの災害をはじめとする諸問題について講演されました。

今回の情報交換会は、屋形船で開催されました。日田温泉から10艘の屋形船に30名程度に分かれて乗船し交流です。内子の芳我さん、真壁の吾妻さんたちとご一緒させていただきました。

若狭町・熊川宿の参加者

船上の情報交換会

2日目の現地視察では、重文の長福寺、旧日本丸館製薬所の岩尾屋住宅を見学、薫長酒造資料館では熊川宿にもお見えいただいた専務の富安さんにご案内いただきました。上町通りから御幸通りへ移動して、重文の草野家住宅の保存修理現場などを視察研修しました。

残念ながら所用のため現地視察を終えて帰路につき、午後の住民分科会には参加できませんでしたが、熊川宿の状況について調査票を提出させていただきました。

豆田町は、JR日田駅からも近く賑わっており、町並みに活気がありました。また、草野家住宅においても部材を大切に扱い保存修理がされている状況がよく理解でき、今後のまちづくりに大いに参考となりました。

現地視察（上町通りから御幸通りへ）

現地視察（若の屋旅館を出発）

にいがた美しいまちなみフォーラム2018 第5回 北陸甲信越ブロック町並みゼミ

と　き：平成30年6月9日(土)～10日(日)
ところ：新潟県上越市　参加者：3名

高田世界館を会場に開かれ、金沢大学川上光彦名誉教授から「歴史まちづくりの軌跡と課題」と題して金沢のまちづくり全般について基調講演されました。

パネルディスカッションでは、「まちづくりは地域の宝の発掘から」をテーマに新潟大学岡崎教授のコーディネートで進められ、松代市や上越市などそれぞれが創意工夫を凝らしまちづくりに取組んでいる状況が大変参考になりました。

地元の協議会や参加団体から取組み報告があり、最後に主催者の新潟県まちなみネットワークの大倉会長の挨拶で閉会しました。

夜には交流会が開催され、手づくり料理で盛り上がりました。

翌10日には高田のまち歩きが用意されており、我々は奥州道・東本町コースを歩き、雁木の町並みの歴史や関川の河岸段丘によってできた自然堤防など高田地区の地形について詳しくお聞きしました。

続いて、全国町なみ保存連盟総会・第1回理事会にも出席しました。

まち歩き（雁木の町並み）

熊川宿の参加者

平成30年度 若狭熊川宿まちづくり特別委員会 事業計画 (H30.7)

4月 5日　「FBCふれあい若狭」収録（松木神社・宮川副会長）
4月 7日　街道シェアオフィス&スペース菱屋オープニングイベント
4月19日　「広報わかさ」取材インタビュー
5月 2日　熊川宿若狭美術館 開館記念式（若狭町）
5月19日　ツーデーマーチ協力
5月23日　立命館大学でまちづくり講演（宮本会長）
5月29日　第1回まちづくり委員会・合同部会
5月30～6月1日　第40回全国伝建協議会総会・研修会出席（大分県日田市）
6月 9日　にいがた美しいまちなみフォーラム2018 第5回北陸甲信越町並みゼミ（新潟県高田市）
6月10日　小浜西組重伝建選定10周年記念事業（小浜西組）
7月 1日　七夕飾り・花いっぱい運動
7月26日　若狭町伝建地区保存審議会
7月29日　夏の社会奉仕（熊川区）
8月 1日　町並み通信第37号発行
8月14～15日　街かど陶の灯り展H30（街かど陶の灯り展実行委員会主催）
8月15日　納涼盆踊り（熊川区主催）
10月7日　第19回 熊川いっぷく時代村（熊川いっぷく時代村実行委員会主催）
10月中旬　文化庁調査官を囲む会（小浜西組）
11月16～18日　第41回全国町並みゼミ（長野県松代市）
〃　地域づくり団体全国交流研修会（福島大会）
12月　まちづくり委員会・合同部会

〈平成31年〉
2月 1日　町並み通信第38号発行
2月　熊川宿まちづくり総集会
3月　平成30年度 最終まちづくり委員会

〈随時・当面する活動〉
・駐車場、前川、道路、神社の清掃と草刈り、看板の補修、熊川城跡整備
・若狭町並びに近隣のまちづくり研修・交流会、あす県大会などに参加
・ホームページ情報更新・SNS利用促進
・立命館大学経営学部学生の「熊川宿活性化」レポート分析
・空き家活用ガイドの作成

1/13 あす県事始めの会

（あすの福井県を創る協会）

毎年積雪を心配しながらの参加ですが、今年は福井方面は大雪でＪＲも大幅な遅れが生じていました。

旭会長の年頭の挨拶、藤田副知事、大森福井県議会副議長の祝辞で開会。福井市豊文化協会の皆さんの公演で盛り上がりました。

1/25 グリーンウッドワーク

（熊川まちづくり推進協議会）

森の素材をそのまま使う、懐かしくて新しい木工教室。農泊推進のためのプログラム開発を目的に企画され、第1回のこの日は、協会の小野氏・柏氏を講師に、梅の木の枝からスプーン作りを行いました。

2月11日には第2回、2月27日には第3回が開かれ、色鉛筆やコーヒープレートを作りました。

2/17 兵庫県養父市 大杉伝建地区から研修

（まちづくり委員会対応）

昨年7月に重伝建の選定を受けられた三階建て養蚕農家の主屋群「兵庫県養父市大屋町大杉地区」から教育委員会と守る会の皆様がお見えになりました。

午前中のまちづくり研修では、自主防災、空き家対策、人材育成などについて紹介し、熱心な意見交換となりました。

3/21 モミジ植栽

（まちづくり委員会）

緑の募金事業から交付いただき、ふれあい公園にモミジを植栽しました。

時々小雨が降る寒い日でしたがたくさんの方に参加いただきました。かなり風の強い場所ですので、支柱もしっかりとする必要がありました。

皆でワイワイ言いながら楽しく作業しました。

5/3 白石神社祭礼

（熊川区・白石神社祭礼実行委員会）

4月末から祭り囃子の練習を行い、2日の宵宮、3日の祭礼と山車巡行を行っています。今年は朝から小雨がシトシト。回復を願って山車を準備し、直前まで思案しましたが、曳き手となる観光客も少ないので、山車巡行を断念してマイクロバスに乗って囃しながら区内を一巡しました。

5/19 ツーデーマーチおもてなし

（熊川区・女性の会など）

寒い小雨の中、20キロと40キロコースのウォーカーたちを歓迎し、まちづくり委員会と熊川女性の会が長操鍋のおもてなしを行いました。会員たちは前日から食材をきざみ、大鍋で約700食を振る舞いました。さらに曽我廼家福輔さんとウォーカーの皆さんが楽しいトークで盛り上がりました。

5/23 立命館大学で講義

（立命館大学茨木キャンパス）

経営学部の学生さん約350人を対象に、宮本会長がまちづくりや人材育成、空き家の有効活用について講義しました。

学生さんのレポートには空き家の有効活用策やＳＮＳを活用した誘客案などが多く見られました。活性化部会が中心となって分析しています。

6/10 小浜西組10周年記念事業

（小浜西組町並み協議会）

常高寺で記念式典が開かれ、祝辞の後、小浜市町並みアドバイザーの吉岡泰英氏が「住民が暮らしやすくなるように伝建制度を活用して下さい」と講演されました。その後、活動報告と新マスタープランの発表がありました。

八幡神社では、おさだ塾が南京玉すだれやあやつり人形などを演じ賑わっていました。

6/30 西村幸夫町並み塾

（坂井市三国町 西光寺）

第57回を数え、今回のゲストは（一社）ノオト代表理事の金野（きんの）幸雄氏。「歴史的資源を活用した観光まちづくり」をテーマに、丸山集落の再生や、伝建地区内での空き家を活用した分散型ホテル設置などの取組みをお聞きしました。

続いて4地区からの報告と、町並み見学会もありました。

（印刷：株式会社　吹　文）